

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	10月号 2012年10月28日
----	---------------------	---------------------

バッハと信仰と伝道

T, G

結婚してからもうすぐ5年になるのですが、これまで家計というものがなかなか手につきませんでした。そこで、今年から我が家では家計に予算をつけることにしました。教会と同じように、昨年の実績から予算をたて、毎月の決算を記録していくのです。なかなかこまめにつけられないので、教会ほどきちんと出入りを把握できていないのですが、それでも全体の流れはつかめるようになりました。毎月末ごとに、今月も食べすぎたね〜、と反省しています。

その中で、ここ最近になって「娯楽」という欄に新しい項目が入るようになってきました。それは、「BCJ」という項目です。BCJとは、バッハ・コレギウム・ジャパンの略です。

BCJのオルガニストS. Yくんとは、東中青時代からの友人でした。また、S. Yくんが恩寵教会の会員で、妻とは幼なじみだということもあり、たまに食事をすることがありました。そのような付き合いの中で、バッハの曲に、どんなふうにバッハの信仰が表されているのか、教えてもらう機会がありました。私は、クラシック音楽については「のだめカンタービレ」をドラマと映画で見たくらいにしか知らない、ほとんど無知な状態だったのですが、バッハの曲にそのような思いが込められていることを知り、それはぜひ聞いてみたいと思われました。そこで、それぞれの実家にあつたCDをいろいろと借りて聞いてみました。すると、それがなんとも素晴らしく、これはコンサートに行かなければと思われたのです。

私が最初にBCJの演奏を聞いたのは、チャリティコンサートでした。生の演奏、それも世界中で賞賛されているBCJの演奏は本当に素晴らしいもので感動しました。それ以来、今年だけで4回もコンサートに行っています。

バッハの曲は世界中で演奏されていますが、BCJの演奏が世界的にも評価されている理由を素人ながら3つほど挙げてみます。

1つ目は、当たり前ですが技術的に優れていること。S. Mさんの目にかかるその道のプロが集まって演奏されているそうです。

2つ目は、古楽器を使っていること。バッハの時代に存在した楽器を使って、当時の音楽をできるだけ忠実に表現しているそうです。

ここまでなら他のグループでもできそうですが、一番大事な要因が3つめだと思います。それは、指揮をするS. Mさんが、バッハについて深く研究し、同じキリスト教の信仰者としてバッハのことを理解していることです。これは、他の指揮者には真似のできないことです。バッハの神様に対する思いを心から理解し、表現できるのは、クリスチャンでなければならないのです。BCJのコンサートは自分の楽しみとしても本当にいいのですが、伝道の一つの手段としておすすめです。

BCJの演奏には、ドイツ語によるコーラスがあるのですが、その歌詞は神様を讃美するものです。コンサートに来た人は必ず神様について書かれていることを自然に読むのです。まずは、一度コンサートに足を運んでみてください。きっと誰かを誘いたくなると思います。

一泊修養会の恵み

A. C

今回の修養会は、初めから予定が大きく変わっていききました。まず、出かける前に臨時総会を開く必要が生じたこと。隣接地の土地取得に向けて、交渉を小会に一任することを大多数賛成で決議しました。それがもう1時近く。牧師は閉会后すぐに不動産屋に電話し、「総会で通りましたので、うちが買います。他に売らないように！」と念押し。非常ドアから隣接地を見ると、ベビーカーを押した女性に不動産屋が熱心に説明しています。買おうとしている人たちの存在を目の当たりにして、どきどきしてしまいました。

それから急いで昼食をとって出かけたのですが、スケジュールは1時間以上遅れていきましたので、牧師の発題後の分科会はできませんでした。しかし牧師が、隣接地に建て増しする場合をイメージしやすいように作ってくださった建物の模型をもとに、全員の話し合いが盛り上がりました。

企画委員が、食後に分科会の時間を作ってくださったので、参加者全員が一度は口を開けたと思います。私のグループは、A. Hさん、C. Sさん、T. Gさん、Hさん、Mさん、T. Kさん、Mさん、S. Kさん、N. Sさん、私という顔ぶれでした。

私たちの教会は高校生・学生層にK. Iさんしかいません。小学校高学年から中学生のうちに子どもたちの絆ができて、中高生会を形成し青年会へとつながっていくような流れをつくりたい。それには、子どもたちが群れて過ごせるような空間を用意し、そこで自由に過ごせるようにしたらという意見が出ました。お茶やお菓子もあって、本を読んだりしゃべったりできる部屋・・・バドミントンくらいのスポーツもできる広場があるとよい・・・土地さえ手に入れておけば、夢はいかようにも広がっていきます。

印象的だったのは、初参加のS. Kさんが話してくださった、ご実家の隣接地が売りに出された時のことです。お父様は熟慮される方で、すぐに決断されなかったのですが、そうこうしているうちに買い手がついてしまい、後悔が残ったということでした。一方、一清さんの母教会の土浦めぐみ教会は、田んぼの中に立っていたそうですが、建て増しするごとに会員が増え、600人を超えたということです。「箱を大きくすれば、中身も増える」とは、真理だと痛感させられました。

私たちも、現状に満足してしまったら前進は望めませんが、より大いなるヴィジョンを掲げ祈り求めるなら、必ず豊かに与えられます。私が中高生の頃、母教会の東京教会では、大人たちが30周年を控えていつも熱心に語り合っていました。「ヴィジョン」という言葉が常に飛び交っていたのです。全員懇談会や修養会のたびに、教会は神様にどう応えていくべきか、受けるより与える教会に・・・という献身の思い、熱い信仰がびんびん伝わってきました。その中で生み出されていった横浜伝道の構想、何年にもわたる莫大な献金と融資・・・CRCや中会の助けも受け、今の土地と建物が与えられました。

中会信徒大会の教会紹介で「めざせ！CS50人」と打ち出したのに対して、実情は平均出席が微減で30人を切っています。でも、今回の隣接地取得を通して、私たちは大きなヴィジョンを掲げ続けよう！という勇気が湧いてきました。予想を超えた今回の一泊修養会は、思いを超えてすべてを実現してくださる神様の約束を思い起こさせてくれました。

労してくださった企画委員会の皆さんに感謝しつつ、修養会に参加できなかった兄弟姉妹とも、新たな希望を共にできたら幸いです。

追記；夕拝の開始時間を早めては（3時か3時半）、祈祷会に参加できなくても祈りを共にできるよう「祈りの課題ボックス」を作っては、といった提案もめましたので、ご報告します。